

山城地域振興計画

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
山城地域にアウトレットモールや次世代型物流拠点を整備するとあるが、地域住民のニーズはあるのか。	アウトレットモールや次世代物流施設の整備促進については、城陽市策定の「城陽市東部丘陵地整備計画」に基づく東部丘陵地のまちづくりを支援するものです。引き続き、城陽市と連携し、地域の方々や民間企業等の御意見を十分踏まえた取組を進めてまいります。
木津川河川敷を有効活用するため、未開発の河川敷公有地について、開発を進めてほしい。	木津川河川敷の有効活用については、豊かな自然を活用した新たな体験観光を掘り起こす、「京都きづ川アクティビティフェスタ」の開催等により、都市部から多くの交流人口を呼び込みたいと考えています。また、国土交通省の「かわまちづくり事業」等による木津川の活用を広域的に支援し、市町村域を越えた賑わいづくりにも取り組んでまいります。
「京都きづ川アクティビティフェスタ」でもVRの体験を実施するとのことだが、VR・ARを活用し、最終的に何をめざすのか。	山城地域では、航空法の規制の少ない農村地域でのドローン操縦体験や、南山城村の自然や高山ダム等の風景を用いたバンジー・ジャンプ等の疑似体験ができるVR体験を行い、相楽東部地域を訪れた方々が地域に親しんでもらうことで、リピーターになるなど、将来的な関係人口の増加を目的としています。
あらゆる人に働く機会を平等に提供し、産休や育児休暇が適切に取得できる職場を増やせば、未来に夢がもて、働きながら、安心して子育てし、末永く住むことができる地域の実現につながるのではないのか。	御指摘のとおり、女性に限らず、若者や障害のある人など、多様な働き手が働き、安心して子育てができる職場環境の整備が重要であると考えています。そのため、各関係機関・団体との連携のもと、「子育て環境日本一に向けた職場行動宣言」の取組やワーク・ライフ・バランスの推進により、多様な働き方を実現し、末永く住むことができる地域づくりを進めてまいります。
「京都府宇治茶普及促進条例」が制定されたが、世界における「宇治茶」の認知度は低い。世界に向けて宇治茶の情報発信に積極的に取り組み、宇治茶の世界文化遺産登録に向けて積極的な取組を推進してほしい。	宇治茶の世界文化遺産登録に向けては、世界で「緑茶のトップブランドは宇治茶」と認知されるよう、海外における国際宇治茶伝道師の任命や、レストランへの宇治茶ドリンクメニューの提案など、宇治茶のプレミアムブランド化を推進していきたいと考えています。また、今後も茶業関係団体や市町村、府民の皆様と連携・協働しながら、宇治茶が、伝統産業や日本文化と深く結び付いた世界に誇る素晴らしいブランドであることを国内外に発信していきたいと考えています。
農業者の所得アップに繋げるため、地域振興計画等でその地域にあった独自の施策等を考えてほしい。	山城地域の農業振興については、「京やましろ新鮮野菜」などを核とした生産振興を図るとともに、首都圏や海外等への市場開拓・販路拡大、6次産業化や農商工連携、スマート農業の普及等による高収益・高付加価値な産地づくりを進めていきたいと考えています。

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
<p>農業の成長産業化のためには、高収益農業の展開や担い手の確保、担い手による規模拡大などが求められる。それを可能にするためには「ほ場整備」を実施した優良農地の確保が重要だが、ほ場整備実施率が低迷している山城地域では、「ほ場整備の検討を進めます。」ではなく、もっと力強く「ほ場整備を推進します。」と計画に記載すべきでないか。</p> <p>また、山城地域では都市計画の見直しにより、ほ場整備を実施した優良農地ゾーンが大規模な開発ゾーンに改められる動きが出ている。開発を否定するものではないが、少なくとも開発面積見合いの未整備農地を「ほ場整備」して、優良農地を確保していくというバランスのある施策が必要ではないか。</p>	<p>ほ場整備をはじめとする農業基盤整備の実施に当たっては、地域農業の将来プランである「京丹波農場プラン」に基づく、地域の話し合いによる合意形成が重要であることから、市町村等の関係者とも連携しながら取組を進めていきたいと考えています。</p> <p>また、都市開発については、市町村等の関係者の意見も十分踏まえ、農業振興に係る農業基盤整備との調和を図ってまいります。</p>
<p>「野生鳥獣の保護・管理」に家畜伝染病の記載があるが、家畜伝染病は突発的であり、対象も異なるので、「家畜伝染病対策」と「野生鳥獣・保護」は分けて記載してはどうか。</p>	<p>御指摘を踏まえ、表題を「野生鳥獣の保護・管理と家畜防疫への対応」とし、「鳥獣保護区の設定や個体数・生息域の調査など鳥獣の保護・管理の取組により、野生動物の多様性確保、生活環境の保全や農産物被害の防止を推進します。」と記載を修正します。</p>
<p>国道1号線や国道24号線、国道307号線などに、道の駅のような観光型休憩所、京滋バイパスや京奈和道にSA・PAをつくるなど、山城地域がただの通過点にならないような、地域の特色や特産品に気軽にふれ合える施設があれば良いと思う。京都府南部には京都市以外にもたくさんの自治体があり、それぞれにたくさんの魅力があるということ、多くの人に知ってもらいたい。</p>	<p>宇治田原町では国道307号からすぐ近くの湯屋谷地内において平成30年6月に交流拠点として「宗円交遊庵やんたん」が整備されました。また、平成29年4月には「道の駅お茶の京都 みなみやましろ村」を整備しました。今後も、道の駅やSA・PA類の各自治体や民間等の施設の整備状況も踏まえ、山城地域の魅力を伝える取組を進めたいと考えています。</p>
<p>山城では外国人観光客が増加したが、観光消費額が増加していないので、より経済効果や経済波及効果を得るためには、人が集まりたいと思う場所と活力がわくような施設があれば良いのではないかと。特に女性のリピーターを増やし、情報発信してもらってはどうか。</p>	<p>観光振興による地域の賑わい創出や、観光消費を通じた地域経済の活性化は、重要な課題であると考えています。例えば、南山城村に開設された「道の駅 お茶の京都 みなみやましろ村」は、宇治茶をはじめ地域の特産品を生かしたスイーツ等が、女性をはじめ多くの観光客に好評であり、リピーターが増え、観光スポットとして賑わっているところです。</p> <p>今後も、戦略的な交流拠点づくりやネットワーク化を図ることにより、多くの人を訪れ、交流し、経済的な波及効果を生み出す仕組みづくりを進めていきたいと考えています。</p>

南丹地域振興計画

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
<p>「インバウンド旅行者が京都丹波地域の潜在的な魅力を掘り起こす原動力」とあるが、意味がわかりにくい。亀岡市や南丹市は京都市から近い割に自然が多く、外国人旅行者にも喜ばれると思うので、このことをもっとPRすべき。</p>	<p>海外からの旅行者の中には、地域の新たな魅力を発見し、国外に発信していただける方がおられるとの期待を込めた表現でしたが、京都舞鶴港や関西国際空港から京都市を訪れるインバウンド旅行者を呼び込むための海外向けPR等を明記することで、施策のターゲットと目的を明確になるよう修正します。</p>
<p>京都トレーニングセンターや、現在建設中の府立京都スタジアム、また味夢の里に建設が予定されている宿泊施設などをきっかけに、南丹地域を多くの人々が訪れ、地域が賑わってほしい。</p>	<p>本計画では、南丹地域の2市1町のエリアを「京都丹波」と呼び、大規模交流施設や京都丹波の食、自然・歴史文化、スポーツを生かした賑わいづくりを進めることとしています。</p>
<p>府立京都スタジアムの供用開始が迫っているが、交通渋滞の対策や防災対策が不十分である。スタジアムを撤去し、安心・安全な治水対策と持続可能な生態系の復元を求める。</p>	<p>府立京都スタジアムは、48万人の署名を受け、青少年の夢やあこがれの舞台、スポーツを通じた健全育成、北中部地域へのゲートウェイ、そして京都府全体の発展の拠点として整備を行うものです。御意見も踏まえ、多く方に御理解いただき、地域から愛される施設となるとともに、円滑に御利用いただけるよう、交通や防災対策を含めた総合的な取組を進めてまいります。</p>
<p>府立京都スタジアムは京都駅からの交通の便も良く、京都のスポーツが活性化するきっかけになるが、周辺の混雑に対する対策はどうするのか。</p>	<p>府立京都スタジアム周辺の混雑緩和については、亀岡駅に隣接するロケーションを生かし、公共交通機関での来場を呼び掛けるとともに、JRに対し車両の増結や増便、乗客集中時の安全対策等について調整を行っているところです。また、試合終了時のイベント開催や、駅南商店街への誘導などによる帰宅時間の分散や、迂回路の案内などの対策を講じていくこととしています。</p>
<p>亀岡市にできる府立京都スタジアムについて、スタジアム周辺の整備がまだまだできていない。府立京都スタジアムの供用開始と大河ドラマ「麒麟がくる」放映が重なる2020年だけではなく、その後も考えたスタジアムの発展を考えてほしい。</p>	<p>府立京都スタジアムでは様々なスポーツ大会や音楽イベントの開催も想定しており、完全室内型クライミング施設や、VR・eスポーツ体験施設、2020年に放映される「麒麟がくる」の大河ドラマ館を設置するなど、サッカー以外にも多様な活用を図ってまいります。 また、京都スタジアムを核としたまちの賑わいづくりについては、亀岡駅北側の広場におけるマルシェ等のイベント開催などを予定しており、京都スタジアムが、府中北部と京都市・府南部地域を結ぶゲートウェイとなり、この地域を多くの人々が訪れ、周遊・滞在する『来てよし』の京都丹波づくりを進めていきます。</p>
<p>発達障害の子どもをもつ家庭にとっては、住んでいる場所に関係なく、どこでも専門的なサポートが受けられるようになることが重要なので、サポート体制の充実を実現してほしい。</p>	<p>発達障害児については、発達障害児支援の専門機関である花ノ木児童発達支援センターをはじめ、市町や関係機関と連携して、身近な療育機関で専門性の高い支援が受けられる体制を構築したいと考えています。</p>
<p>地域振興のための計画にも高齢化の見通しを盛り込んで対策を考えるのは良いが、要介護者数の推移(対65歳以上人口比)という表のタイトルがわかりにくいので、高齢者の計画などで使われているのと同じ表現で表した方がよい。</p>	<p>御指摘を踏まえ、京都府高齢者健康福祉計画との整合性を図るため、同計画に記載している「要介護認定率」に修正します。</p>

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
<p>農業と福祉との連携は「きょうと農福連携センター」以外でも取り組んでいる。障害を持つ人の働く能力を認定する制度についても記載してほしい。</p>	<p>障害者の就労支援の取組として、「チャレンジ・アグリ認証」について記載し、障害者の就労支援と収入の向上を図るとともに、福祉事業所が行う農業への支援について追記します。</p>
<p>京都丹波ブランドなど食に力を入れるのは良いが、国内や海外に広まっていないので、もっと情報発信が必要である。</p>	<p>2011年に策定した南丹地域振興計画で、「京都丹波ブランド」の発信を目標に掲げ、イベント名などで使用されるようになってきましたが、まだまだ認知度は高くないのが現状です。今後、地域ブランドとして一層の普及・浸透を図るため、ブランド統一マークの制定や京都丹波の魅力を体感できるツアーの開発、国内・海外向けのPR等に取り組んでいきたいと考えています。</p>
<p>南丹地域では農業や林業、畜産業だけがクローズアップされているように見えるが、漁協も頑張っているので取り上げてほしい。</p>	<p>京都丹波では、内水面漁業が行われていることから、鮎の販路拡大や観光資源としての活用、水産業の振興について記述します。</p>
<p>南丹地域の少子高齢化は大きな問題なので、頑張してほしい。</p>	<p>京都府内の多くの地域で少子高齢化が進行しており、南丹地域でも京都府全体を上回るスピードで高齢化が進んでいます。南丹地域振興計画でも、住民の方がいつまでも健康で生き生きと暮らせるよう健康長寿の地域づくりに取り組むとともに、若い世代に移住・定住していただけるような地域づくりを進めることとしています。</p>
<p>亀岡市などは、都市へのアクセスがよく住みやすい場所もあるが、電車が通っておらず車で移動しなければいけない場所も多い。そういった場所には人が集まりにくい。免許を持たない都市部の若者も多いので、移住となるとハードルが高いのではないかと。</p>	<p>南丹地域は、JR山陰本線園部以南の複線電化等により府南部との交通の利便性が高く、地域内のバス路線も整備されており、都会に近いメリットを比較的享受しやすい地域であると考えられます。利便性をさらに向上させることができるよう、地域内の移動・交通手段の確保について追記します。</p>
<p>定住人口を増やすのではなく、関係人口を増やす考えはとても魅力的だと思った。南丹地域にはたくさんの魅力的な素材があるので、地域ブランドをつくり上げ、2020年放映の大河ドラマ「麒麟がくる」をきっかけに頑張してほしい。</p>	<p>地域の賑わいと活力を維持・発展させていくためには、そこに住む人はもちろん、観光で訪れる人や、様々な形で地域に関わっていただける方々を増やすことが重要だと考えています。引き続き、地域の資源を生かして地域の活性化を図りたいと考えています。</p>

中丹地域振興計画

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
子育て環境の充実のために高齢者も何かできれば良いのではないかと。高齢者の雇用にもつながると思う。	安心して子どもを産み、育てることができる環境整備を進めるため、高齢者も含めた地域全体で子育てを支援する体制づくりを進めていきたいと考えています。
UIターンをどのように促進し、地元を離れた方々にどのように地元の情報を届けるのか。	UIターン促進については、子育てや仕事など様々な面から、若者等が地域に定着したくなる環境づくりに取り組むとともに、移住に関する情報発信や移住相談、高校卒業時のUIターン登録等を進めてまいります。
都市部で仕事をする際に得られる待遇ややりがいを超えるものが、地域に定住して得られるのか疑問である。地域では「仕事がない」と言われる一方で、人が足りない状態でもあるが、それは大学まで出たのに見合う「仕事がない」ということではないか。	地域での就労については、教育機関等と連携し、若者と地元企業とのマッチング促進やキャリア教育の支援、新しい仕事の創出などに取り組み、仕事の面でも若者等が地域に定着したくなるような環境づくりを進めてまいります。
中丹地域は、「田舎暮らし」「まちなか暮らし」「二地域居住」などそれぞれの好みで生活ができる。若者が定着しやすくなる地域をめざしてほしい。	持続可能な地域をつくるためには、若者がしっかり地域に定着することで、経済活動や地域活動の好循環を生み出す必要があると考えており、子育てや仕事など様々な面から、若者等が地域に定着したくなる環境づくりに取り組んでまいります。
福知山公立大学の講義、フィールドワーク等で大学生とともにUIターンの促進などについて考え、事業を行うとのことだが、具体的にどのような取り組みを行うのか。	福知山公立大学との連携については、若者の視点で地域の魅力を発掘する「地域の魅力カタログ」作成への参画など、地域の明日を担う人材の育成や産業振興、地域の課題解決等を推進していきたいと考えています。
福知山公立大学に期待する将来像やそのための計画があってもいいのではないかと。	福知山公立大学は、京都府北部の四年制大学として地域にとっても大変重要な高等教育機関であり、今回の計画においても同大学と連携して地域の明日を担う人材の育成や産業振興、地域の課題解決等を推進していきたいと考えています。
富山県氷見市には、UIターンの大学生に対して、奨学金の免除制度が一定期間行われていた。大半の大学生は奨学金を借りており、UIターンを促進するには有効なので、これを中丹地域にも採用してはどうか。	京都府では、UIターンに限らず中小企業等の従業員が奨学金負担の軽減を受けられる制度を平成29年度に創設したところです。中丹地域でも、経済団体をはじめとした関係機関と連携して本制度の活用を進めてまいります。
地域の観光振興に、地域資源である文化や文化財を活用すべきである。	中丹地域には、鬼退治伝説のある大江山、赤れんが建造物、国宝の光明寺二王門など、歴史的・文化的な観光資源が多く存在します。市や関係団体、地域等と連携して、これらの地域資源を生かした観光振興に取り組んでまいります。

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
<p>インバウンドの団体などが増加し、農家民泊が足りなくなっていたり、言語、文化に対応できる人材が不足したりしているので、農家民泊のインバウンド対応に関する取組についても書くべきである。</p>	<p>御意見を踏まえ、農家民宿のサービス・経営等のグレードアップに向け、インバウンド対応について計画に記載します。</p>
<p>ICT活用による「儲かる農林水産業」を推進していくと、大規模農家ばかりが優遇され、中小規模農家との格差が拡大するのではないか。</p>	<p>農家の事業規模の大小に関わらず、AI・IoT等の新技術の活用や、消費者ニーズを見据えた品目の生産拡大、後継者の確保、技術・経営の支援等を通じて、儲かる農林水産業を推進してまいります。</p>
<p>「儲かる農林水産業」の推進という記述があるが、日本は人工林が多くその整備や活用已成功している自治体では、人工林がある山に「道」をつくることによって収入を得ているということを知ったことがあるので、取り組んではどうか。</p>	<p>林業については、木材供給量の増加に向けた木材搬出能力の向上支援等に取り組んでいきたいと考えており、取組の詳細については、路網整備を含め、今後検討してまいります。また、防災の観点からも、荒廃森林の整備に向けた森林作業道の開設を支援していきたいと考えています。</p>
<p>地域で生産された野菜などを使い、バイキング形式の飲食店を参考に「農家レストラン」に取り組んではどうか。</p>	<p>農家レストラン等の地域に密着した仕事おこしや、地域特性を生かしたオーベルジュ等の開業を支援していきたいと考えており、具体的な施策の執行については、御意見も踏まえ、今後検討してまいります。</p>
<p>中丹地域でも交通系ICカードが使えるようになると観光客が増え、それに伴って本数も増えるようになると、より流入人口が増えるのではないか。</p>	<p>交通系ICカードについては、山陰本線や舞鶴線の主要駅において、2021年春に利用可能となる予定です。鉄道の運行本数を増加させるには複線化や採算性等の課題もあることから、ICカードの利用拡大をはじめとする鉄道利用や観光誘客の促進に取り組んでまいります。</p>
<p>福知山市は毎年、大きな災害にあっている。災害に強い地域づくりの対策を強化してほしい。</p>	<p>災害に強い地域づくりは、住民生活を下支えする非常に重要な施策であり、森林から河口までの総合的な治山・治水・流域対策、災害発生時の交通ネットワークの確保、住民の防災意識向上など地域ぐるみによる防災・減災対策等に取り組んでまいります。</p>

丹後地域振興計画

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
<p>丹後地域は既に人口減減少に起因する様々な問題を抱える状況にも関わらず、今後更に人口減少が見込まれる。丹後地域の将来像について、「～安心して「元気」に住み続けることができ、希望が持て夢が実現できる丹後地域～」から、「～安心して子供を育てることができ、子育て世代と共に地域が「元気」になる、希望が持て夢が実現できる丹後地域～」と文言に変更し、少子高齢化と人口減少に真正面から対峙する姿勢を示してはどうか。</p>	<p>丹後地域の将来像として掲げている「安心して「元気」に住み続けることができ、」については、子育てを行う家庭が安心して「元気」に暮らせることも大きな目的としており、仕事と育児の両立支援や子育て家庭のネットワークやサポート体制の充実などに取り組んでいきたいと考えています。</p>
<p>消防団の加入率が年々下がり、また年齢層が高くなっている。加入していても活動には参加していない若者が多いので、参加率の向上をめざす取組が必要である。</p>	<p>地域の安心安全を確保するためには、消防団の加入率等については、重要な課題であり、京都府域全体の問題であると認識しています。丹後地域においても、消防団の活動力の強化と団員確保に資するよう、学生や女性等の加入を促進すると共に、OB団員の登録制度を拡充するなど消防団の活動環境改善に取り組みたいと考えています。</p>
<p>「防災科」などの教育プログラムの新設など、災害・犯罪等からの安心・安全に関する人材育成に力を入れていくべきではないか。</p>	<p>安心・安全に関する人材育成については、地域住民の防災意識を高めるため、防災リーダー研修の実施や迅速な避難行動につながる自主防災組織におけるタイムラインの作成支援、地域防災の担い手となる「災害時声掛け隊」の養成などを進めています。</p>
<p>災害のうち地震対策についても知りたい。</p>	<p>地震も含めた様々な防災、減災対策を進めるため、市町との連携を強化し住民の防災意識を高めるための取組を支援するとともに、大規模災害発生時に備えた災害医療体制を強化したいと考えています。</p>
<p>足が悪くて病院に行くことができない場合などに、24時間対応の在宅サービスがあればありがたい。</p>	<p>地域の介護サービス提供体制については、市町村と連携し、介護老人福祉施設等の計画的整備や24時間対応の在宅サービスの充実などに取り組むとともに、介護福祉に携わる人材の確保・定着・資質向上に向けた取組を推進していくことにより、介護が必要な方も安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。</p>
<p>年金受給だけに頼る生活は成り立たないので、高齢者が生涯働ける場所が必要である。また、それによって介護施設の負担軽減にも繋がる可能性がある。</p>	<p>高齢者の就労については、第1次産業事業者などとのマッチングやシニア観光ガイドの養成など、高齢者が多様な場面で活躍できる取組を推進したいと考えています。</p>
<p>山間地域など都市部から離れて住む高齢者に対する交通機関の整備についてはどうするのか。</p>	<p>山間部などに居住する高齢者に対する交通手段の確保については、市町や様々な団体と連携し、MaaSなどの新たな取組支援や地域の実情に応じた新たな交通手段の検討・実用化に向けた取組を推進したいと考えています。</p>

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
<p>高齢者に対する取組が多いが、将来のことを考えると、子どもの数を増やす取組を強化すべきではないか。</p>	<p>京都府全体で「子育て環境日本一」きょうとチャレンジとして、府内全域で、総力を結集し、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいくこととしており、丹後地域においても、育児と仕事の両立支援の取組等、子育て環境日本一に向けた取組を推進したいと考えています。</p>
<p>バスの乗り方講座等を通じた公共交通事業については小学生だけではなく、保育所や幼稚園、特別支援学校等においても幅広く実施するよう、「小学生等を対象に」と修正してほしい。</p>	<p>小学生以外にも、保育所等の未就学児等を対象に幅広く実施する方が効果的であることから、御指摘のとおり修正します。</p>
<p>丹後地域は京都府有数の農水産物の生産地だが、これらを利用した加工食品分野は弱く、もったいないと感じる。京都府も丹後地域へ食品関係研究所を設置(又は既存の商工試験場へ併設)してはどうか。</p>	<p>加工食品分野の強化は、農林水産物のブランド力向上や新たな販売チャンネルの拡大などによる所得向上の取組を支援するためにも、重要であると認識しています。このため、丹後広域振興局では、農林漁業者と食品関連事業者が連携した地域の農林水産物の特性を生かした加工品の開発や商品化の取組に対する活動支援をしており、農業研究所と協働で品種特性にふさわしい栽培法の研究を行った上、作付け拡大を図っています。</p>
<p>「ちりめん創業300年」に向けたイベントの企画が未だにまとまっていない。伝統産業としてのブランドイメージの根幹は維持しつつ、300年を節目にこれまでの業界組織にとらわれない若手中心にゼロからの事業改革をしてはどうか。</p>	<p>京都府も参画する「丹後ちりめん創業300年実行委員会」では、丹後ちりめん創業300年を一過性のイベントで終わらせるのではなく、今後さらに丹後ちりめんを活性化させるための「ブランド」力の向上につなげる機会と捉えています。そのための新商品開発や販路開拓、イベントの開催、加工場のリニューアルなどのハード整備などを、若手を含めた様々な人材の参画により進めたいと考えています。</p>
<p>地域の将来像を実現するためには、南北の格差を是正し、持続可能な地域づくりが必要。そのためには、山陰自動車道の早期整備や綾部以北の京都縦貫自動車道の無料化等の交通インフラ整備等が必要である。</p>	<p>交通基盤の整備については、山陰近畿自動車道及びアクセス道路の整備を促進・推進するなど、京阪神都市圏からの移動時間短縮をめざすとともに、丹後地域内の円滑な移動に向けて丹後半島一周道路などの整備を進めることとしています。公共交通においては、鉄道事業者を中心に組み込まれている、スマートフォンによる様々な移動手段、周辺施設における一括予約・決済システムなどのMaaSの取組支援、自転車を移動のツールとして活用した周遊の仕組みの構築を進めることとしています。</p>
<p>丹後に行く際の交通の便を良くしてほしい。</p>	
<p>京都府には様々な専門機関があり、特に、丹後は農業・商工業・海の研究機関と豊富が、まだまだ潜在的な力が発揮できておらず、また、アピール不足も感じる。そこで各研究機関活性化のため、研究者間の交流や連携、研究所の府民への公開等を行ってはどうか。</p>	<p>企業・研究機関等との意見交換の場としては、KAFF-techフォーラム(Kyoto Agriculture, Forestry and Fisheries Technology Forum)を設置し、定期的な情報交換及び研究連携先のマッチングを図っているところです。今後は取組を更に強化することで、研究開発から現場普及まで一貫して進めていくこととしています。また、府民向けには、毎年施設公開や研究成果報告会を行っているほか、府内高等学校等への出張技術講演などを実施しており、引き続き開かれた研究機関となるような取組を進めてまいります。</p>

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
魅力ある地域にならないと人口流出を食い止める事はできない。	地域の魅力向上については、市町や海の京都DMOをはじめとする様々な団体と連携しながら、「景観」、「文化・歴史」、「食」といった地域の魅力の掘り起こしと発信を強化し、魅力ある地域づくりに取り組みたいと考えています。
丹後地域の一般的な所得では、都会の大学に進学させるのは家計の負担が大きいのが現状。大学を卒業しても奨学金を抱えて社会人になる場合、所得の低い地域には戻って来ない。奨学金の負担を減らすとともに、丹後の所得を向上させ、若者にとって魅力的な地域となる必要がある。	丹後地域の所得を上げ、若者にとって魅力的な地域となるためには、「稼ぐことができる地域」にしていくことが大変重要です。本計画では、稼ぐ力の強化による産業振興を推進するとともに、稼ぐ力の源泉となる人材の確保・育成に取り組みたいと考えています。また、地元企業と高等学校とが連携したインターシップや合同企業説明会を開催するとともに、子ども達がふるさと丹後に誇りと愛着が持てるよう、ものづくり企業等と連携した小中学生への出前講座等の取組を推進してまいります。 奨学金負担の軽減については、京都府全体で、中小企業応援隊や経済団体をはじめとした関係機関と連携し、奨学金返済支援制度の普及を促進することとしており、丹後地域での活用を進めてまいります。
地元である丹後に戻って地域に貢献したいと思うが、大学卒業後に都会部でそのまま就職する人が多く、地域に若者が少ない状態である。将来地元に戻り、就職を考えている学生に情報が届くよう、Uターンしやすい環境をつくってほしい。	Uターンしやすい環境づくりについては、丹後地域で活躍している企業等の取組を学生等に認知してもらうため、インターシップの受入れ推進や、就業支援機関と連携したセミナー、大学訪問等の取組を進めています。 また、地元の小中学生に地元の良さを知ってもらう取組や地元企業による出前講座、市町と連携した合同企業説明会など、地域で育った若者が地域で就職・活躍できる環境づくりを進めていきます。
地域を支えるために、学生も地域づくりに関わっていききたい。	地域と大学生との協働については、地元の中高中生との交流による地域課題の解決を進めるとともに、それらの交流を通じて、未来を担う人づくりを進めていききたいと考えています。
インバウンド観光客の増加に対して、多言語対応ができるスタッフの不足が深刻である。丹後地域は宿泊施設へのインターンや研修も行きやすい利点があるので、観光と外国語に特化した、留学生も受け入れられるような大学の創設を進めてはどうか。	インバウンド観光客へのおもてなしを進めるためには、御指摘のとおり多言語化への対応が重要であるとともに、留学生を含めた外国人の方々が安心して丹後で生活できる多文化共生の社会づくりを進める必要があると考えています。そのため、道の駅丹後王国「食のみやこ」を活用し、インバウンド市場などの多様なニーズに対応する人材を育成するほか、市町や産業分野の枠を越えた外国人労働者等確保を進めると共に、市町と連携した様々な文化交流事業、外国人の生活支援を行うサポート体制の整備を進めていく考えです。

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え方
<p>京都府内の均衡ある発展として高等教育機関の南北の偏在格差を解消する必要がある。丹後においても、高等教育機関を整備してほしい。</p>	<p>全国的に人口が減少し、大学運営が厳しくなる中、地域ごとに高等教育に取り組むのではなく、府北部全体で取り組んで行くことが重要であると考えています。このため、府北部に立地する福知山公立大学と京都府及び設置者である福知山市を除く府北部の全ての自治体と包括連携協定を締結し、丹後も含めた北部全体の人材育成や定着、地域経済の発展などに連携して取り組んでいます。また、丹後地域だけで実施することが困難である介護人材の養成に北部の市町や団体が連携して取り組んでいます。</p> <p>今後は、地域外で学ぶ大学生と地元中高生などと連携した地域課題解決と未来を担う人づくりにも取り組んでいく考えです。</p>